

写真がやってきた～！　日常生活の中に。

写真の力をもっともっと社会に活かそう。
もっともっと場を作りて写真自ら行動しよう。

旅で“Encounters” フォトスライドショー@病院



T.T.Tanaka



岡山協立病院

緩和ケア病棟

岡山市立金川病院

御津高校写真部員
へのクリニック

※ “Encounters” の写真に触発されて地元のピアニスト、吉川純子さんが作曲・演奏していただき、スライドショーで音とのコラボレーションも好評でした。

入院している人たち向けにフォトスライドショーをしようと思いました。写真を通して一緒に旅行をしてみたいと。それをきっかけに頑張って治療し復帰して旅をしてEncounterしたいという気持の支えに、また、それが難しい人たちには、旅でのEncounter疑似体験を提供したいと。私の創作活動は、テーマは旅。得られる価値として、Encounterです。実は遠くへの旅に行かなくても、「日常での旅」も沢山まわりに。気づくかどうかは個人次第。Encounterの価値に気づくことで地球が素敵なものになっていく。写真の貢献できる価値はもっともっとあるのだと強く思っています。

誰でも写真が簡単に携帯・スマホで撮れる様になりました。動画も。ソーシャルメディアでは画像が氾濫しています。写真はますます身近なものになってきていると思います。でも、だからこそ、写真という静画にしっかり向き合うがゆえにみえてくるもの、深い気づきやメッセージは、普遍的なもの。また、写真という作品にリアルに向き合い触れることのできる「場」は多くの生活者にとってはありません。実は工夫すればもっともっと、日常生活の中に開拓出来ると思っています。

たまたま地方の医療機関の空間に身をおいていたときに、ふと、ここに写真がやってきてもいいんじゃないかな?と。岡山の川崎医科大学付属病院副院長の猪本良夫医師がこの考えに賛同され、医療関係者とのつながりを作っていました。早速、川崎医科大学付属病院のライブラリーなどに写真集(拙著“ENCOUNTERS”)寄贈が実現しました。そして、今回、地域連携活動に旗を振っておられる国立病院機構岡山市立金川病院の大森信彦先生がプロデューサーを勤めていただき、金川病院と、岡山協立病院(高橋淳病院長)、そして心地ダイニング、「奈々伊」でスライドショーを実施いたしました。-岡山協立病院では、患者さん・医師・看護士他・ミアンマーからの研修医も参加したスライドショーを、また、緩和ケア病棟でもスライドショーを実施いたしました。-市立金川病院のスライドショーでは、患者さん・医師・看護士の他、地元市民の方々、ボランティアの御津高校生、御津高校写真部員たちも参加してくれ会場に入りきれない程の盛況となりました。写真部員達とは特別に写真技術についてクリニックも行いました。

今、医療機関も人口減少・高齢者増・効率化のプレッシャー・地域連携など課題山積み。地域の中でどういう中心的な役割を果たしていくのかそれも深刻です。同時に、入院患者さんのために、様々な催しも各病院でトライされています。でも「フォトスライドショー」を催しとして行うことは自分のまわりでは聞いたことはありませんでした。

写真はスマホや様々なディスプレイで簡単に見られる時代。でも、あえて、写真と、更にフォトグラファー自らが生活者の側にやってくる機会や場 자체を創造することのダイナミズムを改めて感じました。一般生活者達と一緒に、インラクティブに、写真を見ての気持ちや感動を共有できるのです。サッカーや映画のように。私はそれを医療空間で、また、地方において行ってみましたが、その可能性を再認識いたしました。医療空間はその一端だと思います。そういった空間に、写真自らが意思をもって出て行きたいと思います。私自身、機会があればこれから色々な地方での医療機関や教育機関やそれ以外でも、また、外国でも出張っていってやってみようと思っています。フォトグラファーの方々で私もと言う方は是非チャレンジを。また、是非来て欲しいという様々な地域の方々の声をお待ちしています。 T.T.Tanaka

ENCOUNTERS

患者さん、医師、看護士、事務など様々な方が集まりました。ミャンマーからの研修医も参加しています。

世界を皆さんと一緒に写真を通じて旅をしましょう～の一時間でした。

トランプを支持したアメリカの地方の人たちのやさしい表情にEncounterしたスナップショットや、フロリダの大湿地の動物達とのEncounterやその南部の歴史的な背景やフォスターの歌を聴きながらこめられている悲哀など、また、伊豆やアジアの日常生活でのちょっとしたサプライズシーンなど。最後に、協立病院のすぐ近くでのEncounterもお見せして皆さんびっくり、かつ、喜んでいただきました。このような写真を撮った人のその時のキモチやEncounterしたときの驚きや発見をシェアできたことが今まで無かったことで嬉しそうな顔が目立ったのが印象的でした。



岡山の地元のピアニストが写真集に触発されて、作曲・演奏された音楽も一同で聴き、写真からの発見や、また、創造の広がりとその面白さなども興味をもっていただきました。

視覚と聴覚、フルに刺激され、右脳と左脳が活発だった時間でした。

② 岡山協立病院(医療coop) 緩和ケア病棟

20161208

緩和ケア病棟にて実施。患者さんの体調次第で実施判断としていましたが実施することに。病院長と様子をみながら20分実施。ナースステーション横のコーナーに、寝たままの高齢の女性患者さんが二名、座って聞かれた患者さん二名、付き添いの家族一名、担当医師、病院長、広報担当が集まってきて実施。病院のPC+簡易スクリーンを利用。手元に写真集を回覧。ナースステーションからも見えるので、仕事の合間にそれぞれ聞いていただきました。



高齢男性患者に付き添いの奥様も並んで座って聞かれました。今日、スライドショーがあるかもということで、日時を合わせて病院に来てくれました。目を輝かせて聞いてくれ、夫に時折り、話しかけてくれていました。終了後、わざわざお礼を言いに来ていただき、今日、来れたのが嬉しい。いいものをみんなに見せて貰えてありがとうございました。（感動。）

ベッドを二つ、スクリーンに向いて看護師の方々がセットしてくれました。

二人の高齢の女性とも、意識が薄い感じで目を閉じたり、上を向いたりされましたが、特別なインプットを得て反応されている感は確かでしたので、僕は彼女たちの頭の奥に向かって話しかけていました。

これだけの用意を患者さんのためにも、僕のためにも、皆さんがしてくれて、本当にやさしい、いい病院だと思いました。

20分くらい経った時に病院長がめくばせしてくれたので、フェイドアウトしました。病院長が大感謝してくれて、是非また来てほしいと・・・。貴重な体験となりました。

③ TT たなか氏を囲む、写真で世界旅行の夕べ (ディナーショー) 岡山市@心地ダイニング、「奈々伊」20161208

医療界からは国立病院機構岡山医療センター名誉院長青山興司氏他多数の医師、御津金川地域医療ネット関係の方々、日本・ミャンマー医療人育成支援協会理事長岡田茂氏、落語家(雷門喜助-真打)、山陽新聞写真家(西大寺はだか祭)中井三郎氏、瀬戸内市立美術館学芸員など、28名。

最新4Kプロジェクター投影と、地元のピアニスト吉行純子氏がEncounters写真からインスピアされて作曲された3曲をキーボードと、グランドピアノで演奏。視覚と聴覚で、ディナーを食べながら、会場全体で写真を通して一緒に旅をする会となった。

写真集Encounterからフロリダの色々な動物とのエンカウンターや、フォスター作曲のスワニー河を聴きながら悲しい歴史にもふれながら撮影したときの気持ちをシェアしたり、ミクロの世界の旅で昆虫に出会ったり、タスマニアや静岡や西表島にも旅しました。そして、写真集にはない、直近のアメリカの大草原の小さな田舎町の人々や風景も紹介し、トランプで揺れ動くアメリカの意外な(やさしさと悲しさ、美しさといった)実態にも触れました。また動画時代の中で写真のユニークな力にも。ディナーショーの締めは落語家真打、雷門喜助氏が旅から世相にからめてお笑いで師走を〆て終了となりました。



二列テーブルが並ぶディナー形式



前に84インチスクリーン。4Kプロジェクターで投影。



レストランでは、今まで演奏会などは多々あったものの、スクリーン投影のフォトスライドショーをディナーで実施するのは初めてのことでのことで、事前の準備も気づかないことがあり、色々助けていただきました。

ディナーに集まった方々は多士済々で、医療界だけでなく、連携をしている様々の方面から。あちこちでリラックスして会話も弾み楽しい会となりました。アート意識が高い人たちが集まっていたので、開始前も、終了後もT.T.Tanakaと談笑となりました。



↑ 真打ち

ピアニスト吉行純子さん
キーボードで「蒼」

別の病院でも是非スライドショーをしてほしいとお願いされる展開もありました。



グランドピアノで、「パリの飛行機雲」

グランドピアノで「二人」

普段行かないところを旅することができたし、音楽まで一緒に聞けて大満足で、Encounterの大切さ、俺もそう思う、私もそう思うと言われた方が何人もおられて嬉しく感じました。

入院患者、医師、看護師など職員、御津金川地域住民、県立岡山御津高校学生ボランティア、同高校写真部員など50名近く。会場に入れず、院長他は、廊下の立ち見となった。ここ数年では病院内イベントでこれだけ集まつたのは初めてとのことだった。会場のみんなと一緒に写真で旅をしてEncounterしようということで、直近の写真集Encountersの写真から、ほとんどの人が行ったことがない、フロリダや、タスマニア、静岡、神奈川エリアなど100点余りを鑑賞した。



冒頭では、シークレットフォトとして、病院関係者には内緒で.T.Tanakaが先乗りして撮影した御津金川地区の普段見慣れているが、意外なシーンや角度からのサプライズフォトを紹介した。自分たちの町や村が再発見されることの嬉しい表情が印象的であった。

また、話題のアメリカ新大統領にからめ、トランプ氏が勝利したアメリカ大草原の人口の小さいネブラスカ州の自然や人々、町を見せて一緒に旅をした。

大森病院長の導入あいさつ



そして、写真集にインスピアイアされて、作曲をしていただいた地元ピアニスト吉行純子さんの演奏を写真を見ながら鑑賞し耳からの刺激も提供した。



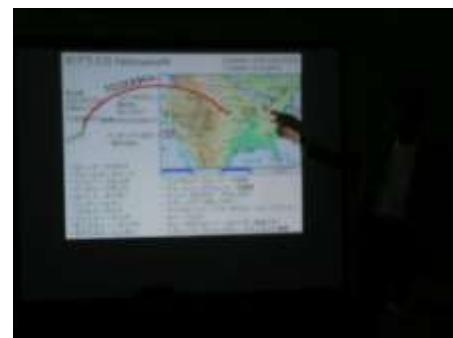
普段は写真を意識していない人、スマホで写真をよく撮る人といった一般の人たちが興味をもって一生懸命聞いてくれて目を輝かせていたのが印象的だった。



最後には、新たに旅してみたいところとして、タスマニアや伊豆を挙手した人が多かった。



御津金川地区の写真↑



ネプラスカ州↑



御津金川地区のどこなのか?、知らなかった・・・とか、
同じエリアの写真をカラー表現したものと、モノクロ表現したものを用意したところ、驚きを多くの方が感じ、
俺はカラーだ。私はモノクロが好きなどと、拳手になったりして、盛り上がった。
普段見慣れている景色をモノクロで見たときの発見、旅人たなかが意外な視点から切り取った木立への興味など、印象的でした。

写真に興味ある方からは、特別なカメラなのか?
どうしてこんなタイミングで撮れるのか?
どんな撮り方なのか?という質問があったり、双方向のコミュニケーションもとることが出来た。

⑤

国立病院機構市立金川病院 20161209大森院長 看護師長/岡山県立岡山御津(みつ)高校写真部クリニック

写真部の作品が病院内に展示されています。廊下がちょっとした展示スペースになっています。
一点一点、T.T.Tanakaが、素晴らしい点ともっとこうするといいかも点を全写真部員にクリニックしました。
ファシリテートしてくれたのは看護師長さん、



病院内のスライドショー終了後の会場で、写真部の直近の作品を、撮影者とT.T.Tanakaが会話しながらクリニックをしました。
「どうしてこれを撮ったの？」「どれを一番表現したかった部分はどこ？」「この色が綺麗でアピールしているね」「もうちょっと絞りを浅くすると強調できるよ」「空の何層にもなっている色のバリエーションが素敵だね。」「ピント合わせる時は、花がいっぱいあるときにも、全体を見るのではなくて、ピンポイントに一点を注視して合わせてね。」・・・

最初は恥ずかしそうにしていた生徒たちも、時間がたつと、積極的に自分の表現したかったことなども説明でき、
それぞれのポジティブな点もわかり嬉しそうでした。

スライドショーを見に来ていた地元のおじいちゃんたちもその場に残って、そのやりとりを興味深くうなづいて聴いていました。



⑥ 地域住民が通るメインストリートに写真掲出



成広薬局
介護プランなりひろ
御津医師会 みつネット
成広紀子さま



国立病院機構
岡山市立金川病院隣接
成広薬局

近くの小学生の通り道で、
小学生の目線で写真掲出。
小学生が騒いで見ていく
んだそうです。

プロデューサーをつとめていただいた国立病院機構岡山市立金川病院長大森氏より

From: 大森信彦

Date: Sat, 10 Dec 2016 09:37:35 +0900

To: tanaka

Subject: Re: ありがとうございました！

TTTさま

こちらこそ大変お世話になりました。今回の企画を終えて、今までとは違う、じわ一つとした喜びといいますか、新しい水平線と言いますか、楽しい気分の心地よい疲れを感じております。

ほんとうにありがとうございました。金川病院の講演会の仕込みをあんなに入念にしていただき、集まった聴衆も身を乗り出し(男性が多かったのが印象的でしたし、学生もいて、何か、場が生き生きしていたように思いました)、子供のように目をキラキラさせていました。心が震えました。

やはり、ぼくは、個人としての成功よりも、地域の才能を引き出すような事業のプロデュースに打ち込む仕事に関わっていきたいと、改めて思った次第です。

貴殿のおかげ。こんなめぐりあわせをくださった神様に感謝しています！貴殿の挑戦の一端にお付き合いできれば、きっとさらなる新水平が見えてくるとわくわくします。

素晴らしい2日間をありがとうございました！

国立病院機構岡山市立金川病院

院長 大森 信彦

〒709-2133

岡山市北区御津金川449

電話:086-724-0012

Fax:086-724-4990

URL:<http://okayamamc.jp/kanagawa/>

2016年12月10日 9:24

大森先生

吉行さま

今回は大変お世話になりました。すごい出来事を体験させていただき、これから元気を沢山いただきました。

何といっても、病院長でありながらの大森プロデューサーと、8人大家族の吉行純子コンポーラー・アレンジャーと新しい挑戦が出来たことです。

私の一生の大宝物になりました。

まだまだ挑戦していきますので今後とも是非お付き合いさせていただければ幸いです。

取り急ぎの御礼まで。

T.T.Tanaka